

西三河支部

幸田町総合防災訓練に参加 共同でがれき除去、道路復旧を



東日本大震災以降、全国の自治体で想定外も視野にした防災訓練が行われている中、9月5日(土)最大震度6強を想定した平成27年度幸田町総合防災訓練(主催/幸田町)が幸田町防災広場会場で、午前9時から実施され、48機関約610名が参加しました。愛産協西三河支部より近藤千雅支部長、梅谷岳志支部長、他1名の支部会員が参加しました。

この訓練は、大規模地震対策特別措置法及び災害対策基本法に基づき、幸田町、各行政機関、民間企業、行政区、自主防災会、ボランティア団体及び一般住民が総ぐるみで、その発生が懸念されている南海トラフ巨大地震を想定、総合的かつ実践的な防災訓練を実施し、地震災害時における早期対策、相互協力体制の確立及び住民の防災意識の高揚を図る事を目的に実施されました。

防災広場は警戒本部のテントや各自治会の防災会



のテントの他、消防の訓練塔や消防車両、陸上自衛隊車両、救急車両が並び、物々しい張りつめた空気につつまれていました。訓練は地震の発生を知らせるサイレンが鳴り響き、参加者全員が頭をかがめ、身を守るシェイクアウト訓練から始まりました。

避難路・危険箇所点検、ボランティア支援本部設置、炊き出し本部設置、救護所設置、自衛隊による倒壊家屋からの救出、中部電力による配電線復旧、東邦ガスによる都市ガス埋設管復旧、飲料水給水など関係機関、団体等を中心とした28に及ぶ基幹訓練が行われました。

愛産協西三河支部では幸田町土木課、環境課、額田郡建設業組合と共同でローラー、グレーザー、ハサミBHの重機その他、2トントラックを使用し、がれきの除去及び道路の応急復旧を行い、車両通行を可能にする道路復旧・がれき除去訓練を行いました。

幸田町とは平成25年3月4日に災害時における廃棄物の処理等に関する協定を締結しており、今回の防災訓練では他団体とのチームワークや連携などについていろいろな点で非常に参考になった訓練でした。

